百千鳥
鳴門白浪
五

五

8
4344
5

百千鳥鳴門白波巻之五

造り物の正面より上手三間の間二重舞台 [illegible]の内に檀[illegible]に錦の[illegible]
かゝり 但し出入口より下座方後へ[illegible]一面の山際のさがり 武家造のかゝり[illegible]
見へて本舞台より正面二重舞台の左 檀作し 廊下の屋根をかせし 楼[illegible]なる
二ツ目の正面檀の井方の門 檀ちりの見切れなる 遠見城の松 楼閣の並木見へ
すべて風雅なる唐宮の趣き 幕の内より講中念流し[illegible]にて幕明く すべて
玄蕃四人 [illegible]三人 玄蕃念佛 [illegible]の[illegible]但し 右念仏の人あまた 玄蕃
[illegible]の衣 男女 仕出し大勢 太鼓を見物して居る 玄蕃[illegible]の打鉦二ツ三ツ[illegible]

講中 [illegible]
一願以此功徳 平等施一切 同発菩提心 往生安楽国
一南無阿弥陀仏く ト 被
[illegible]
仕出 一[illegible]ト玄蕃念仏[illegible]
仕△
一イヤ [illegible]作法もおぼえて[illegible]
ト 仕出しの中に[illegible]

へ 8 4344 5

去の文里坊主に成たる年が久の按摩…この[illegible]医者法成投薬にて幕帽より出る

不詳ゆかりのある事ままで説法…

味 一あなた其の仕付の御ましむ建立…

又 一雅は…

又運のやの手ぬぐいト取て行く

又 一遠武さ成だ…やの手ぬぐい

味 一導家の…の…

法 一新屋出入の歌ざんへ

味 一方丈どのゝ木偶の…

又 一お見ゆう…

久との 一鬼会じやあア

味 一イヤお入りまで…

法 一…

おつ薬…

法 一せん…と

又 一…

味 一そろりと

又 一…

味 一…

一…

トぬかくられいの…仕出しあるも…

若いおのせ生うけ仕か…

段…

侍 一今の中でも…

くはなるまい…コリヤ我やら…

まづ小の孫かりや中ち町二三郎出つて

ト振舞が…

男 一八かく

ト…

侍 一今日八例も…

まがの…

婆 一男八百侍さん…

婆 一第六…

一…

婆 一第六…

侍 一…

今日…

ゆるりドリヤ一…

キドが…モウ…

智 一今…

[illegible]

わちきアこれをもらひくださんせ　下男「最早まあお隣の様子が見へます一両より　婆「ヲヤ何を言ふ
トお婆ア女郎がよつてしまひやす
番「其字アお月様の縁へ江戸の姿が見へてしまひますア　婆「そうかして
女郎衆のたちが見へりや女郎のでんくでござりますア　番「御休なさい男の衆ぶやと申ますア　婆「ヲヤかして
見へるやうに見へますぞへ　番「そりやうそかいなアわたしが見てまいりまして見へなんだら
下ばかり見へんせ　ト文をとろうとする　番「新地の女郎やすまのおかしみでござりまして下されへきつとおまへ
ての[illegible]アあ　下男「サアサアお茶が出ますのでお休み　婆「ドレ女郎さんをよんで
おかみさん　ト番頭が出て男の書付を見ておりましたが此の女郎衆の大事にはいりまして
蔵の中の文はきつかりとおまへと番頭様十年もの三月の志をそへて二人の身の定めを書いて女郎衆の名をとり
楽の彼岸に参りがけの人にて此人はおのれと紀十郎様で一人ともいちまんまと紙の大事をぬき
加西方の姥達へおしめの人　トつぶやきながら此の手紙は御存じの女の名を書きまして一通をもちまして
中お約束の下寺町でござります　婆「めでたや只今の門前へ来ますぞ　番「おまへ様でござります

要「御すまいはもうこの辺でござりますか　ト番頭は今日此の文を要助殿へ見せう
すまいのや　女「ほんにまあおまへさんの一寸でもおかへりなさいな　要「ソレ道の御寺でござります　女「お前様どこぞで旅のお方でござりますかへ
出来ましたら仏様のお寺へおまへの親御様の菩提を弔ふてたのむ人をたのんで世にある人の花の日を結び流れておまへのお寺の門へお参りなされませ
きなぐさみに参りましても寺院の風雅の風情が面白い　ト暫く家に入りてたづねて様子を探りて見る
無常の身をあはれみ御縁の志しんを仏にうけのしやアア　と今まで尋ねた家の娘をさがして来たと見へます
ろうそく花を上げてお香をたてまつり仏の御恩を念じて菩提を弔ふ勤めを　ト言ひつゝこの寺の住職に会ふ
くみて女郎の身にして縁もあまた寄りて参る　要「一寸八字田要助様へ参りまして江戸の縁で参りました
縁に来てもの　一寸ちと要助殿ござりますか
細く隠居の身の内には五郎の五代目の娘の俳人夫婦へ参ります　女「見てくださりまし
ある年の十年程の縁もまだ和尚様に申ましたがはかりまする　要「一寸一
今日は大変な事でござりまして和尚様にお頼み申しておかねば
格別今日ハ千代ト申すの寺もこれまでのこらず出されましておまへをたのみてそなたまで

彦「最早まア手でござります　上に書きたる木魚を叩き…… 観世音菩薩 [illegible]
捏菊無阿弥陀佛 ト 木魚を叩き [illegible] 蛸(?)の [illegible] 光の
唱ふるぞ其でも大事ござんせん　要「さてハ [illegible] の首尾 [illegible] 安「 [illegible] トくさけ [illegible]
要「まアさう云つて何のわざで今日が千日と思ひの外 [illegible] 日 [illegible] 恋がら
いつそおつうるねへ　先々「イヱきついこツちやアござんせぬ [illegible] 人出合 [illegible]
此の [illegible] の頃で二人の者を [illegible] 此のでこそ [illegible] つ
よしさわるねへ [illegible] の中へ入て食飯を [illegible] 遠 [illegible] でも [illegible]
ぞうるうかいぬく [illegible] 誰が [illegible] せぬ [illegible] 不 [illegible] 遠からず [illegible] さ
しんぞの [illegible] の [illegible] きさん [illegible] やらんせぬ [illegible]
〈自害〉の [illegible] ト [illegible] 要「イヤさ [illegible] 道理
く元武 [illegible] とハ萩塚の [illegible] 田出 [illegible] とい [illegible] 此の [illegible]

されども其の身ハ萩屋伴右衛門と深く [illegible] 容子ハ一切 [illegible] と返答
親の気 [illegible] 押し [illegible] 聞て [illegible] 此のおよしハ萩塚右衛門で
入の丁人萩屋伴右衛門 [illegible] 親 [illegible] 萩屋 [illegible]
の一大事 [illegible] と [illegible] ひそかに [illegible] 秋ろう
病気と [illegible] 我々 [illegible] 妹 [illegible] 正月六日 [illegible] 今日まで [illegible]
手 [illegible] て [illegible] 人目を [illegible] かり [illegible] 物
おきて [illegible] 伽羅の [illegible] 辛抱ハテ出して [illegible]　夕「イくわしや何
おう [illegible] 母 [illegible] 八 [illegible] 何や
中に伴右衛門の [illegible] 小 [illegible] 稼 [illegible] 会 [illegible]
うねへ　要「それで一とせ武者修行の志し [illegible] と [illegible] 太 [illegible]
その方が [illegible] 伴右衛門 [illegible] 看病 [illegible] 附 [illegible] の [illegible] で一 [illegible]

えんざうり
中村まつは

宇田川勝
實三郎

母の金吹一つの世にも此悪紙送る人とおなじ人をりから先頃経よりにおいての最難らよく
をおさめ紛合せ後の文ぎりの母語して一旦その場を落せ 八悪紙おりの人へ[illegible]らぞんなん
粗忽ごろ枝子谷後のバ京大仏の町の宝花にまゐる迄後の文ぎり語るも世話悪く[illegible]よの
事その身にも此上に[illegible]悟せ安堵させんと参らせのじゃ君 ト文ぎり胸りて 夕「そうかへとりと
しあとぞ今ら二人一所に〇サアく こりや大てのてじやらんせねて好ま ト むせう子抜 立ても立さ
り翁そう 要「コリヤく 妹例をぎれく 立さうじ侍ならどの堅忠の物を彼を抜ぬべく
せつなどコリヤ侍ござんじゃ 夕「何のしゆが悦び所こゝや後ぞ何そんし[illegible]子申るると
どやらんせねえさんてんあちやくべ添ぬとれあく トとくろ迄も要抱 要「コリヤ妹るあんとを
るく 夕「何を去御とハその後の文ぎりと只私が妹女郎初むそれをおもう[illegible]
語して侍及ねら二所にあいせ母へ申すてしあんしと 要「それぞ侍なるどの[illegible]の悪報
ど二つにハ兆館添さ演内出雲それ程子被られだこそその身の孔[illegible]る紙は満と思ひ

おつとでハるならう 夕「サアその悪事つらハせんど死んでてハるならぬアそん今う誰にあうと思
へらんせねえがハ悪いらく妹女郎を女房に持しあんしこうつぷんはらされ[illegible]ね ト滞り
揃ひ 要「あもさん今コリヤいろう仏があうう あつろくきく 皆「ふう子て得ら志むべきへ
婦人の嫉妬未来をまうらのるぞくへ 夕「エヽ後が立てかうとの今の八未来をどやらん
せぬあるとでの大事の敵ゆゑを語られて二世しあんせる人を後が立まいが 要「コリヤ
く[illegible]の大事の男が守らくよもの人あへ 夕「おまへさんじや畦女中からどやの
婦人が其の守るならハ大事の敵ゆゑを妹子とられ誰が志らぬ顔して居られうぞいな
要「サアそこが大たくの逢う志らぬが仏らぬが花 夕「イヘのうまでもそんな
ままくいは役があでも播や世ねこちや生て出る[illegible]ごやつるまア 要「ハテ ある川さ
当別で有今その身が生て出て侍なるどのへおおふるるお家の為前おもうそれゆへ 月出
皮平家繁昌させそのちそも天命ふるる後今志ちらく あんがらしや 夕「イヽえ志へ

ほうも待てゐも無じやすなく出て行きもしやう　要「ハテそのやうな事を頼んでおく

それはさいはひ其のやうな事じや　又「サアその兄弟のおやくじやによつて今日まで頼んで置いた

事なのさア　要「サアその頼みつゝでお会ひ申さぬ

ゆゑ知らずの仏のおかゝ様の命の事がこの世に残らしやつたら

御臨終もどうぞ頼んでくれる心どうかゐるのゝかう　信「わたしも情が通ひまして

これまで兼ねてゐます　又「イヘたとへお執心が晴れずとも嬉しきことを

じやらんせぬ　要「それのこぼとうかんぐれ　又「イヘ出て出るわいなアヽ清めて

侍「昼中に門を売めらしコリヤ何じやおまへ　ト　要股引をして　要「コリヤやく

今宵の所じやおまへ呼出してお家は此本の是打ちをいふまでも　又「それ

うらどもの知人まゝのこなさア　要「精くじや　ト侍ゝ来たり　イヤ今お話しあ

のおん中じや御臨終会仏く　ト条件立ち　信「南無阿弥陀仏　要「南無あみ

信「なむあみ　両人「なむあみだぶつ　ト其の会があつて各々おのおの進みかかる[illegible]

要「ヤレく仏をうかゝへるも是ほど苦労する事じや　侍「たのみます　要「御臨終まで

く　信「会点がゆきます　ト信をひきよせ　華くはお誰じやぞんの　侍「イヤ誰でもかわ

りしでゐります　信「これさ八出合の　八百侍がゐります昼日中に門を売めて行や

マア何とでゐります　信「イヤそりや行かぬるチト肉でも清めて務むるうぬ法す

がけつて　侍「ヲイそれで白昼まつかさかく　信「それでゐる　ト侍ゝ信会云々　要の肩は知らぬて

出仕まくなどと出で迎へる侍衆もてもてらるる武士のそでを失礼

千万　侍「イヤちと尋ねる者がゐります仏の者の事をば御免よ年

○年の内二ヒ八ひゑでも済まい　要「ハテ何も知らぬ男でござる　ト武田石塚

任「侍さんそこに二百人程あります三百八捨円で物がかり付る

世の情をかけた通りアノなきうらが茶塩を立ます其の家が来

よろこび今日まいりハかまちやたがやと金あが入用ふくろまる殘りの金ハ拾ひとり来 仕 「平板ものハ安くて上品重宝もうるぬの小金ちゝハ行りあれ買ておく
ハ兄来るとらのう 仁 「イヤ〳〵さやうでハなくまもなく上方様の代金ハかあ小ハ〳〵
まねるものかまさのハ新ぶけで待そなりもまるでなりまる 仕 「よくなる晩うて
もはなしても内ふぶんせれろこん 仁 「それハ方かゝるもまるた拾ものしぶ
ろ遠ひまぬ母ろ小 仕 「ハテハ名仕ぶやうの 仁 「平ぬわじ〳〵ト拾ろう 仕 「仕房
どのこれさんぐ方さう 仕 「ハ程なぎうが上様の拾ものハ私ぐなりまる 仕 「ハテなるア
要 「シテそこえハなぎうと母しまたぶやうの今ぐなるう 仕 「イヤなぎうふなりも
なぶや 要 「それまもこの上解を建る志ざしハ 仕 「サテ兄小ハ〳〵しまの細りあるぶや
要 「シテその上細ハ 仕 「そうがたしぶやなる承徳どのとりなが後の次ぎりまを拾て萩
塚の京光世ん新ぶとりの者神れの人〳〵ハ〳〵と口徳さ所が義成行りなと云

虫ぶたつ〳〵ぬけ世るぶじやそこぐ之徳ぶのも幸ぶわるこ小義〳〵氏意じめ
られさ所ぶ新〳〵を小經系者ふ〳〵その公表代ぶ〳〵りなりて志まみさじや
けられのかこうとり人義座仕方ら世ハ後の次ぎりなりてどうち〳〵世〳〵うせさと
おとその仕方ら世ぶさぶ〳〵世てられと之徳ぶの家来碓井義るどのがおくあこ仕
方つさ〳〵ふ〳〵〳〵大まんのもそふる仕す少アノ通りの上様の元上ぶ〳〵れぶ
先々ぎうが善様のあの上様が義氏世ぶて〳〵世きうこせるぐ方さて智志
とこるこうさかこうの上様世うもとり人ハマアこん合りのじやてト要 「ハテ
で拾ものおこうこシテそこ元ハ仕方ら世ぶ面神とう〳〵ぶいこうこう 仕 「イヤ
ふなり新ハ志〳〵程ぶも年かいこうおのぶハ上〳〵ぶ世ていまる 要 「ハテ上義
兄来るこ上ぶ様りの弥さこそこ元ハ町人権威ぶるくてハ中〳〵経義ハ私まい事
舟ぐるハ仕方ら〳〵ト拾世小会よく面神ぶ下ぶるれで山力の上威

忠義の詞に詮議のうへにて疑ひもはれ 侍「其ハさし当つてスリヤ何れとも面目次第 要「イヤ
此人さへ手にいらばどのやうな 侍「ハテ吟味して見るまでの事るならハ其人を手に入たくさまが
要「刀の威光お国の為人 侍「マア悪がるなハさい 要「まづ残る所もなけれバ何ハ
おいで 一要助は 侍「侍の衛門の事 侍「先お先へ 要「お居を江戸表へ
ト出かけ居る要助侍の詞おもつて大事の事を物語り 侍「何やら秋の通ひ路
籠の内の言ひ訳も新しき事をおもひ出し
じ母との今はせうふ、およその母の念をもかるまひそへて今迄まへておそへて
遊んで来たがアノ嬉しやモウ夜ハ寺町に寄るなら四五日ハ参らうの身じやが
ト寺の鐘あそこに逢うてゐるのが分ぎりの内儀で方の
通りの遠ひ道せめてけふまで逢ひたうてなく ト嬉の涙を流して
ぶんでゐるよりは本もおめ 侍「ヤアなりやおぎりが兄要助どの敷居の
難儀の上は後の分ぎり仕舞して大坂の紙立のけと思ふの深切ますれば 要「イヤ 江戸ハ

今迄でハ志しもむなしくなつて折角あつく導も気をせかれ世の常の人
ぞ要助どのゝ人まで手をかへまでいとのとんが ト以前から仕組んで持つたが傍へまハし
ける年の迷ひぞやれやく 女「それ今が抑ぢやふよりく
ま今の詫もせるんで此掛の来るさ礼を茶屋へ出て秋り紙たら人 ト思ひ
女「是と人にお頼ひにハテ会兵のゆるかく驚き出る女房かさ
てまつと寝のく拝みおもしろく 侍「大事るとおどりやく トいそぎ走りておちつく 女「おまへもマア聞きもおわら
いるといへさうすんの今春ご酒の辞もさあら出来めさ 侍「其もくたつぎ整せる
いチフト株の何くし逢ふもなきへ人が方の事の見世もおるのでへれも
く 女「今日とし大事とんせんあつて纏をかねしくや大今ぞ
家の何まちなうト去らう主も隷人仕出し札を聞かるゝ親方の様子を吟まして
ゆきなさ来 隷人□「往よしとおんなで行 女「げんこのしかまへ □「五百ぐりや 法会がるね

弐百じやし　七「弐百でハどふも売ませぬ　□「ゆふべの人ハ五十文でかつた

じや　トかごのおやぢかごを出してまゐり手　ト侍たち見て　侍「此かごハおきまりのかりじや

それからかごを付て　さあ出しなされ　[illegible]

まうなんの仕がよひじや　□「サアかごハどふじや　七「コリヤ金子をかりじや　弐百文十で値をよしと行ぞ

まちる　□「五百しか出せぬか　七「こちらが先へまいる　□「何ほどまがうたら人足が出来

□「たのもとじやトつぎや

がうでえ入ト[illegible]の者[illegible]かかり人の仕出　[illegible]

入のへ[illegible]

一安立町まいらふでゆく　七「弐百の一ひきかへ　七「[illegible]方手じやと[illegible]せへ

なんのかじやの人文十五人せ　△「文十の一つ形ぐ人もせ[illegible]　七「一三百いやよいやいやも[illegible]

山の手まで山の手　ト侍たち[illegible]

ト又かごの中　かごの手　ト[illegible]

きらはイヤ親りて文十の酒のでハゆきませぬ　△「それくいまゆきとつてでうけ

△「イヤモ又百でも文字もいやもぬ　△「このり漢違ひじやとつてもぬト[illegible]

そのきやら[illegible]

一五十九

先日の人ハ入[illegible]

なれこ入の入[illegible]

と云ふ[illegible]で来る　七「毋どじやし　○「コリヤ声も一ひ五百じやし

ぬ百まづんで弐百じやト此内侍たち[illegible]

く。○「それで八百両ハト侍たち[illegible]

○「アーよひハ我々ハ九百両ハ入ト侍たち[illegible]

しただいの程業でも取りのでいふのじや　○「このつまつい若い[illegible]

そじやとん金子も行ぬトで[illegible]

七「ヤア[illegible]

なかひるとんびとりへて[illegible]

人持ぐやハテめんせうそトがそんの[illegible]

てゆふきさとお入成まて　七「リリヤ捨て逃れぬ　七「吉助そちの[illegible]　七「サア[illegible]

七「イヤ演[illegible]　七「イヤ八百でも車がすまぬ　ね「イヤ九百でも車がすまぬ

ト[illegible]

伊 「アヽ姫しや 雅也足弱めハせるんぐさそ」 ト伊 「うかがひ」 要 「ハ姫めの」 要 「ハ姫も」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」
伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」 伊 「ハ姫ハ」 要 「ハ姫ハ」

どこまでゆかうとも遁さぬと執念く[illegible]イヤサ[illegible]執念く[illegible]
が塚の柳は涸の雨その[illegible]の[illegible]じゃ[illegible]
しお[illegible]と時節を待ちかんせう　ト[illegible]
[illegible]が此塚へ[illegible]の[illegible]る　ト[illegible]
こゝろハ　要「梅若[illegible]塚の柳を[illegible]とても[illegible]で　侍「此塚ハ柳[illegible]
サ[illegible]それをふくむ[illegible]のん　侍「どの[illegible]もう[illegible]ト[illegible]
[illegible]られい　ト[illegible]
あハ[illegible]　ト[illegible]ん[illegible]子[illegible]の[illegible]コリヤ[illegible]　侍「梅若の[illegible]を[illegible]柳[illegible]
車は[illegible]コリヤ[illegible]て[illegible]　ト[illegible]
[illegible]ト[illegible]　ト[illegible]
[illegible]　要「何の分此場[illegible]　翁「[illegible]の[illegible]
[illegible]気[illegible]せ[illegible]

ト[illegible]「[illegible]イヤ[illegible]へ何[illegible]して[illegible]モウ[illegible]じゃ[illegible]て門をしめまする　侍「イヤ
私ハチツト此[illegible]縁だ[illegible]　翁「イヤ[illegible]の[illegible]
で[illegible]ね[illegible]　侍「イヤ[illegible]
出られまいぬ　翁「出られぬといへ　侍「アイ[illegible]それでも[illegible]出て[illegible]
ぬでありまする　翁「ヨ[illegible]か[illegible]て[illegible]て上るか[illegible]
[illegible]せ　ト[illegible]　侍「[illegible]かつて[illegible]で[illegible]
ぞか[illegible]かり[illegible]じゃ[illegible]ト[illegible]　婆「[illegible]
さ[illegible]何[illegible]　翁「[illegible]今[illegible]て[illegible]じゃ
[illegible]ト婆[illegible]　婆「[illegible]かり[illegible]で[illegible]まへ　侍「[illegible]
[illegible]やぞんじまぬ　婆「[illegible]　翁「[illegible]
じゃト[illegible]サアサアかへ[illegible]かして上るか[illegible]せん[illegible]なア

伜「イヘ外へ出ハ晴天でも手前がりますにつけ傘ハからかさひとつちよつとおりますが

それ夜ハ雨夜ごとの方がよつぽとりまする　智「それにおりましやうと思ひますが御方じや

わいなア　とかく又婆目　婆「何ぞう噂しなさつてもツイ縁きしさまよりますがいたり

せがろうとぞ行ものかなア　トかうさらにさし出して　伜「是ハまア迷惑なことじや

かう様でおりますト　婆目　伜「テモおもしろいものじや　婆「おもしろそうな　伜「イヤサ

おもしろいハけがなかろうさ　ト何やらちんがさんでもまだわかい衆の噂さけなかろう

さそとのハおもしろくなんでもおりますト婆目へ見てゐる　婆「何ぞうわかい衆もそんがさんで

おりまするなア　智「それハこちの旦那ハまだ大きひさ

かしこくおさへかさじやおませぬ　婆「おやさ十四五才にもなりなさるな　伜「いうさあ

十四五か十五六ならいへもう是でうどよひぬ女をゆんじやが　智「何のマアお

んまりうれしそうな顔らしいなア　伜「イエく十五六ぐらいとぬなるがよひ

じやそれをまた見てお入なされつけ　婆「アノかさがけがする

久　伜「事が紙をもる隠でハ存んじエテ向ふをおさへ大きな合ちがさんでツイ

くしと被きるじやト又夜手大ぶんどうくと伜ちろひつろくサアく情なる初霞じやそして

ト大ぶんときおしく伜ちろの笠の上へ参　婆「コリヤまあうえんとせんぞんなア　伜「おまへよりわしぶ

霞ぎるひじやわいなア　ト去ぶんにて大きう　智「コリヤおどろも夜ハいつくれ

ぬりんなア　ト　かくへなけても伜ちろの婆目もよろく二人からて出よと紀　伜「アノ嬉しいや大

ぶん寄り出ぎ売しまさ嶋出そ手も売らぬ今参いお寺に留てけらへてお

まへの霧ぎるひとやしがかる所りぎるひと二所ぎ森をもじや出すまでひろ

ト婆「ヤ何らぬ未わア中らんきつくハぞん付まぬるんなア　伜「ぞんまいでハぶん

でかうさんの川添へ迷ハぞへらしやそのおまへの迷ひが落て上られ申すト　きい

妹様是の本来ハ女子たとへさ誰じやそこでむつへのげ此の岸に割てくなる

八百屋作ゑ
玉五郎
宮田要すけ
笑三十郎

ゑゝだきう
中村松江
茂兵衛作ゑ
中村芝翫

[illegible]

[illegible]

[illegible]